
過ち

春日井 李蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
過ち

【Nコード】
N5763S

【作者名】
春日井 李蘭

【あらすじ】
久々の投稿です。とにかくダーク気味です。蘭ちゃんが思った、人の本当の在り方です。後ろ向きな蘭ちゃんは嫌！！と言う方、ダークなんてありえないと言う方はお控えください。

(前書き)

ダーク気味ですよ。

過ち

それは犯してから思つもの

だがそれは

自分の間違いに気付ける唯一のチャンスである

過ちを犯した事なんて無い

そう胸を張って言えるような人はほとんどいない

誰もが自分に嘘を付き

人に合わせて

偽りの笑顔を見せている

それこそが過ち

自分に嘘を付き

人と一緒にいる事で

自分を守っている

人をおもっているかのように見せて

実は自分自身が傷つく事を怖がっている

本当の自分を出してしまえば

世界で一人になってしまふんじゃないかと

過ちを犯し続け

それでも表目上の美しい人間関係を描いている

そもそも人間関係に美しさを求めてはいけない

時にはぶつかり

時には泣き

それでもお互いが自分に嘘を付かず

自分を偽っていない

そんな関係が本当の人間関係ではないのだろうか

偽りは過ち

人に合わせるのは必要な事だと思つ

それでも自分を我慢するのは違つ

自分を偽り

いい子を演じる事は

人に嘘を付き

自分を隠している

証拠だ

だが、過ちを重ねなければ人間関係がうまくいかないのも事実

嘘に嘘を重ね

小さなその背中に大きな十字架を抱え

なお、胸を張り生きていないとならない

世界が回り続ける限り

人間が人間であり限り

過ちは存在し

いずれ世界を埋め尽くす

私たちは自分の過ちに気付く事があってはならない

自分が私を演じる限り

私は自分を隠しているのだから…

(後書き)

一度付いた嘘は貫き通し、真実くまことくさせよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5763s/>

過ち

2011年10月9日21時16分発行